

令和5年度 第3回大津市教科用図書選定審議会【会議概要】

日時：令和5年7月11日（火）14:00～17:00

会場：大津市役所新館2階 災害対策本部室

1 出席者

(1) 選定審議会委員（4名）

榎本恵理委員、山田淳子委員、中野啓一委員、中野正樹委員

(2) 事務局（4名）

上杉康晴学校教育課長、浅野和成学校教育課長補佐、中西香織学校教育課指導主事、奥田研二学校教育課主査

2 会議の要旨

(1) 開会

[事務局]

本日は6名中4名の出席があり、大津市教科用図書選定審議会規則第5条第2項の規定により、定足数を満たしているため、議事を進めることとする。また、審議会は、協議する議事の内容を考慮し、採択後まで非公開とする。

(2) 挨拶

[会長]

(3) 本日の議題について

[会長]

本日の審議会の議題について、事務局より提案を求める。

[事務局]

第3回審議会及び第4回審議会の議題及び流れについて説明。

本日の議題は、小学校各教科の教科用図書の評価の集計方法について、特別支援学級で使用する一般図書の評価方法及び推薦図書の決定方法について。その後、教科用図書の調査研究及び意見交換の時間とする。

(4) 小学校各教科の教科用図書の評価の集計方法について

[会長]

評価の集計方法について、意見を求める。

事務局より提案を求める。

[事務局]

資料「小学校教科用図書評価用紙」、「推薦図書の評価に関する資料1」及び「推薦図書の評価に関する資料2」に沿って、採点方法について説明。採点は観点ごとに4段階で行う。各委員が採点したものを集計し、一覧表を作成する。出席委員の合計点数及び各委員の得点率をもとに審議し、推薦図書の候補を決定する。種目ごとに議決し、出席委員の過半数の賛成をもって正式な推薦図書とする。

[会長]

信州教育出版社の評価の取扱いについて、審議会において協議することとなっていたが、その経緯について事務局より説明を求める。

[事務局]

市に見本の送付がなかったため、文部科学省通知「教科書採択における公正確保の徹底等について」に基づき、調査研究を行っておらず、市の審議票を空欄としている。

<質疑応答>

[委員]

再度の確認だが、当該者の教科用図書は、本当に送付されないのか。

[事務局]

県に確認したが、送付しないとの結論を得ている。

[会長]

見本の送付がなく、市による調査研究が行えないことから、審議会としては評価不能として取り扱う。

(5) 特別支援学級で使用する一般図書の評価方法及び推薦図書の決定方法について

[会長]

一般図書の評価方法及び推薦図書の決定方法について、意見を求める。

事務局より提案を求める。

[事務局]

資料「小中学校特別支援学級教科用図書評価用紙」に沿って、決定方法について説明。調査研究された一般図書について、教科用図書として相応しいか否かを各委員が評価する。集計結果をもとに協議し、出席委員の過半数の賛成をもって推薦図書を決定する。

<質疑応答>

なし

(6) 中学校各教科の教科用図書について

[会長]

事務局より説明を求める。

[事務局]

中学校各教科の教科用図書は、令和2年度に採択され、令和3年度より使用している。教科用図書の無償措置に関する法律施行令第15条に、種目ごとの同一教科用図書を採択する期間は4年間と定められているため、引き続き現行の教科用図書を使用する。

(7) 教科用図書の閲覧、研究

(約2時間)

(8) 教科用図書についての意見交換

[会長]

小学校各教科の教科用図書及び特別支援学級で使用する一般図書について、各委員よ

り意見を求める。

[委員]

出版者の数が多く、見比べるのに苦労する。二次元コードが掲載されている教科書も多く、全てを確認するのは難しい。推薦図書決定までの時間は限られるため、重要な単元などを中心に調査していきたい。

[委員]

どの教科書も、多様性などが十分に配慮された紙面だった。その分、様々な色が使われすぎていて目がちらつくようなものもある。どこまで多様性を反映させていくべきか、判断するのは難しい。昔の教科書と比べると、雰囲気など大きく変わっている。変わったことによる良さを見つけていかなければいけない。

[委員]

人権、SDGsなど、どの教科書もよく研究されている。どこを一番のポイントとして評価するか、しっかりと考える必要がある。

[会長]

どの教科書もよく考えて作られているので、教科書を見ただけで判断するのは難しい。現場の先生が使いやすいことが大事。例えば、学校現場で使用されているタブレットとの関連性など、教科書がどうやって使われていくのか。デジタル化が進むなか、教科書がどのように変わっていくのか。それをどう選定していくか。

[会長]

本日、全ての教科書を見られていない委員もおられると思うが、次回の進め方をどのようにしていくか。

[事務局]

本日欠席されている委員もいる。本日の評価を再度確認する時間、本日欠席された委員が評価する時間なども考慮すると、一定の時間を確保すべきであると考えている。採点、集計、評価、同数の場合の協議など加味して時間を確保する。

[委員]

次回の審議会までに、教育委員会に行くことは可能か。次回の時間だけで足りるかわからない。時間を確保し、きちっと見たうえで評価したい。

[事務局]

可能。次回の会議時間を延長することもやぶかさではない。教科書の数も多く、また観点ごとの評価に時間を要するため、時間をしっかりと確保する。

(9) 閉会

(10) 事務連絡

[事務局]

今後の予定及び資料の取扱について